

## 第2章 群馬県における自殺の現状

### 1 群馬県における自殺の現状

- ・本県における自殺者数は、平成15年の562人をピークとして減少傾向でしたが、(図2)平成30年以降増加し、新型コロナウイルスの流行もあり高い水準が続いています。
- ・本県の令和4年の自殺死亡率は18.7であり、減少傾向で推移していますが、全国平均の17.4を上回っています。(図3)
- ・15～34歳、40～44歳の死因の1位は自殺となっています。
- ・年齢階級別では、自殺者数が減少傾向にある年代が多い中で、10代の自殺者数は、平成9年以降概ね横ばいで推移しています。(図8)
- ・年齢、性別、職業・同居の有無別に5年間の自殺死亡率を見ると、男性無職者が高く、独居の人は更に自殺率が高くなっています。(以下参照)
- ・原因・動機別では、健康問題が最も多く、次いで家庭問題、経済・生活問題となっています。ただし、健康問題にはうつ病等精神疾患が多く含まれます。(以下参照)

順位	自殺率が高い層	自殺死亡率	順位	原因・動機	
1	40～59歳の男性、無職、独居	321.8	1	健康問題	59.1%
2	20～39歳の男性、無職、独居	176.8	2	家庭問題	15.9%
3	40～59歳の男性、無職、同居	146.2	3	経済・生活問題	15.4%
4	60歳以上の男性、無職、独居	101.3	4	勤務問題	8.0%
5	20～39歳の男性、無職、同居	56.8	5	交際問題	3.5%

出典：いのちを支える自殺総合対策推進センター

出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

「地域自殺実態プロファイル(2022)」

- ・職業別にみると、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者の割合が52.5%を占めています。(図9)
- ・自殺者数のうち自殺未遂歴のある人の割合は、男女ともに全国よりも若干多く、男性は16.7%、女性は32.3%となっています。(図14)

・自殺者数や自殺死亡率の現状等をみると、年代、性別などによって自殺の要因と考えられるものも様々です。そのため、ライフサイクルに沿った若者、女性、中高年男性、高齢者への支援や、生活困窮者、就業者、自殺未遂者を含むハイリスク者支援など、対象に合わせた重点的な取組が求められています。

#### ※人口動態統計

・人口動態統計は、日本における日本人を対象として、住所地をもとに死亡時点で計上。自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは自殺以外で処理しており、死亡診断書等について作成者から自殺の旨訂正報告がない場合は、自殺に計上していない。

・本計画の本文中では、主に人口動態統計による数値を使っており、第1章の数値目標も人口動態統計による数値目標。

#### ※警察庁による統計

・警察による統計は、総人口(日本における外国人も含む)を対象として、発見地をもとに自殺死体発見時点(正確には認知)で計上。自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは、捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上。

#### ※地域における自殺の基礎資料

・厚生労働省自殺対策推進室において、警察庁から提供を受けた自殺統計原票データに基づき集計を行ったもの。「自殺日(自殺した日)」「発見日(発見された日)」と「住居地(住居があった場所)」「発見地(発見された場所)」の4つの組み合わせにより集計。

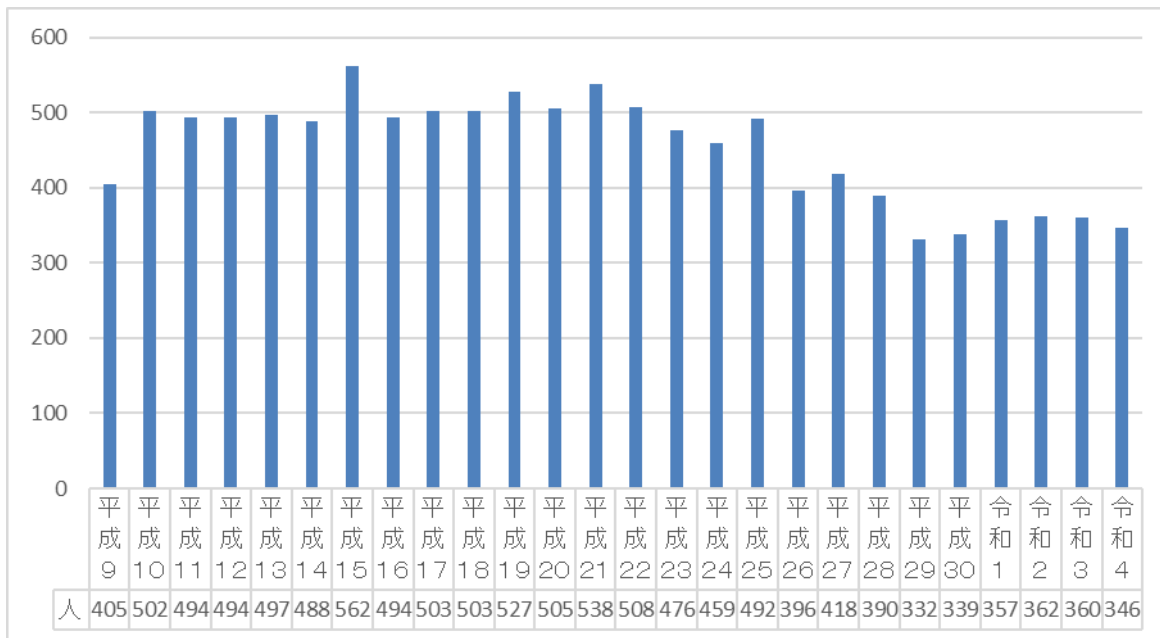
・ここでいう「地域における自殺の基礎資料」は、「自殺日・住居地」を使用。

注)「第2章 群馬県における自殺の現状」で掲載している表及び図は、「全国」と表示のないものは、すべて群馬県の統計資料となっています。

(1) 群馬県の自殺者数・自殺死亡率の推移

○本県の自殺者数は、平成 15 年の 562 人をピークとして、平成 29 年には 332 人まで減少しました。しかし、平成 30 年以降増加し、依然として高い水準が続いています。

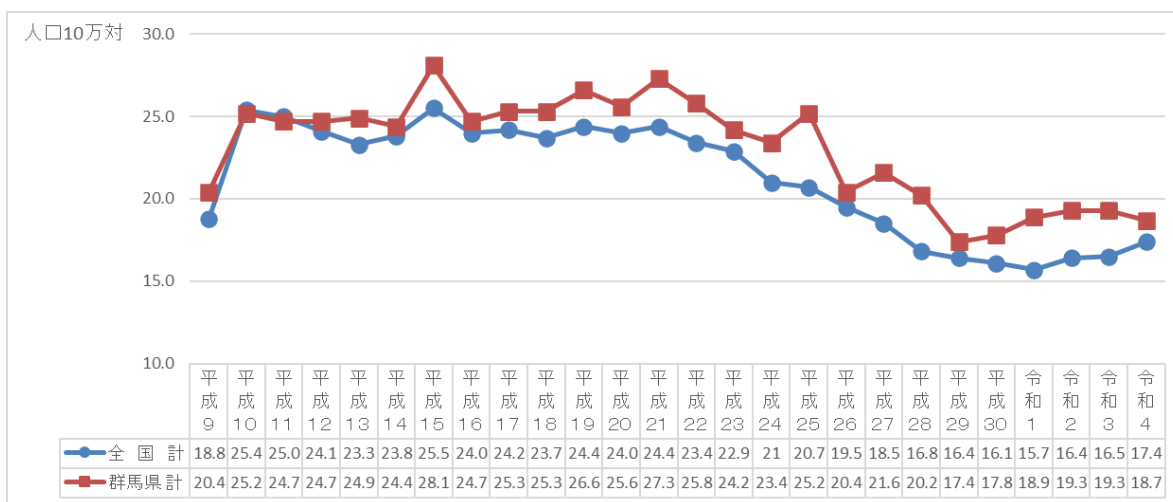
図 2 自殺者数の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

○令和 4 年の自殺死亡率は、全国 17.4 に対し本県は 18.7 であり、全国を上回っています。経年的にみても、全国を上回っている状態が続いています。

図 3 群馬県と全国の自殺死亡率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

注) 自殺死亡率 人口 10 万人当たりの自殺者数

○年齢階級別だと 15～34 歳、40～44 歳の各年齢階級において自殺が第 1 位となっています。

○35～39 歳、45～59 歳までの年代でも、死因の第 4 位までに自殺が入っています。

表 1 年齢階級別死因順位（令和 4 年）

	1位		2位		3位		4位	
	死 因	死亡数	死 因	死亡数	死 因	死亡数	死 因	死亡数
10～14歳	-	...	-	...	-	-	-	-
15～19歳	自殺	8	心疾患(高血圧性を除く)	3	-	...	-	-
20～24歳	自殺	22	不慮の事故	5	-	...	-	...
25～29歳	自殺	13	不慮の事故	4	-	...	-	...
30～34歳	自殺 悪性新生物<腫瘍>	各9	心疾患(高血圧性を除く) 不慮の事故	各3	-	...	-	...
35～39歳	悪性新生物<腫瘍>	18	自殺	15	心疾患(高血圧性を除く)	11	脳血管疾患	4
40～44歳	自殺	32	悪性新生物<腫瘍>	27	脳血管疾患	14	心疾患(高血圧性を除く)	9
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	70	自殺	35	心疾患(高血圧性を除く)	27	脳血管疾患	19
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	109	心疾患(高血圧性を除く)	39	脳血管疾患	33	自殺	32
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	151	心疾患(高血圧性を除く)	61	脳血管疾患	34	自殺	26
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	269	心疾患(高血圧性を除く)	87	脳血管疾患	50	肝疾患	24

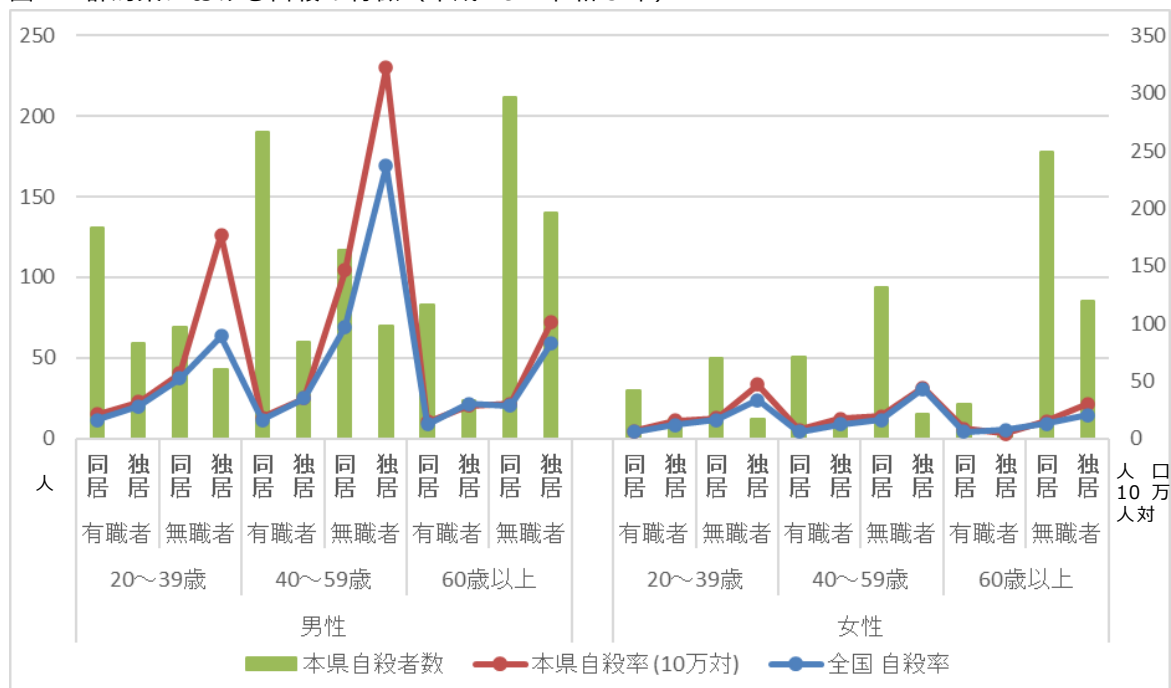
※2人以下の数値は…で表示  
出典：厚生労働省「人口動態統計」

## (2) 群馬県における自殺の特徴

○平成 29 年から令和 3 年の 5 年間の自殺者の合計を年齢、性別、職業・同居者の有無別にみると、自殺死亡率では、40～59 歳の無職の独居男性（中高年男性）が特に高く、次いで 20～39 歳の無職の独居男性となっています。

○自殺者数では男女とも 60 歳以上の無職者が多く、次いで男性は 40～59 歳の有職者、女性は 40～59 歳の無職者となっています。

図 4 群馬県における自殺の特徴（平成 29～令和 3 年）

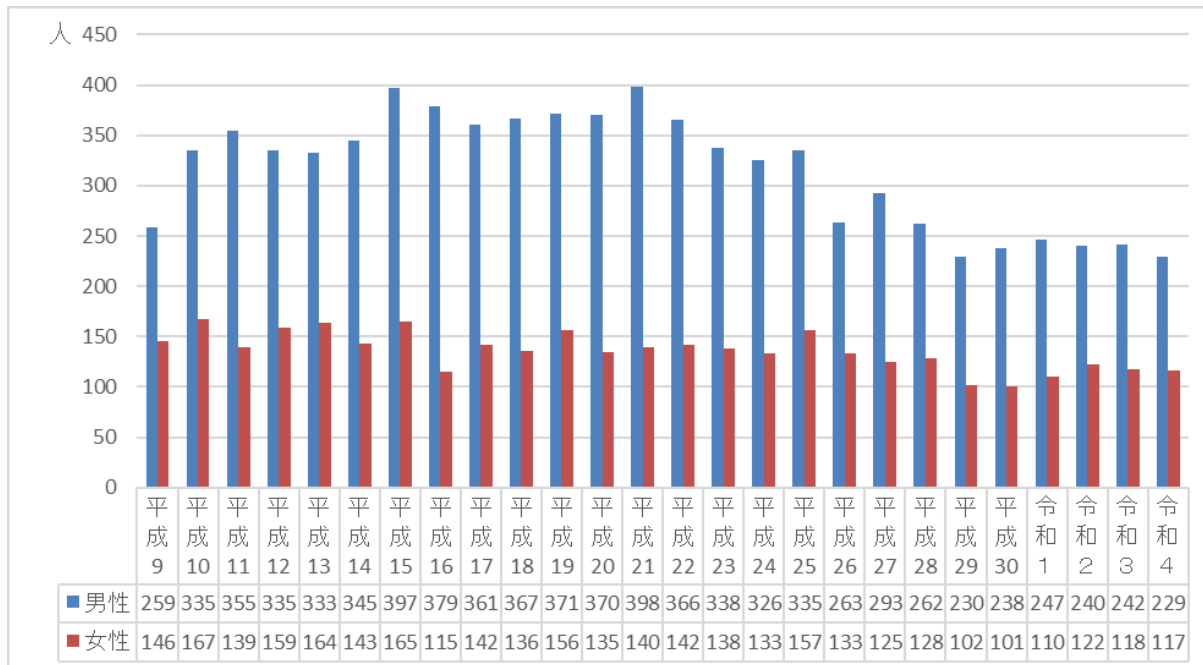


出典：いのちを支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」

### (3) 性別・年齢による状況

- 性別の自殺者数では、平成5年から平成9年までの平均は男性が女性の1.7倍でしたが、平成10年には男性が急増しました。
- その後も男性が女性を大幅に上回る状況が続き、令和4年は男性が女性の約2.0倍となっています。

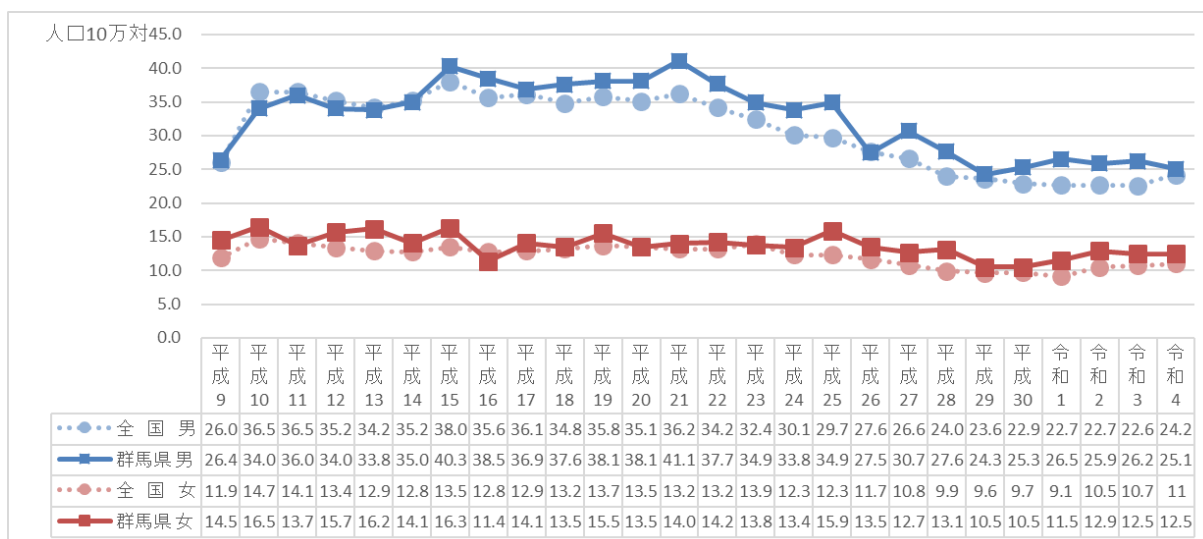
図5 性別自殺者数の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

- 性別の自殺死亡率では、平成9年以降、男女とも概ね国の自殺死亡率を上回って推移しています。

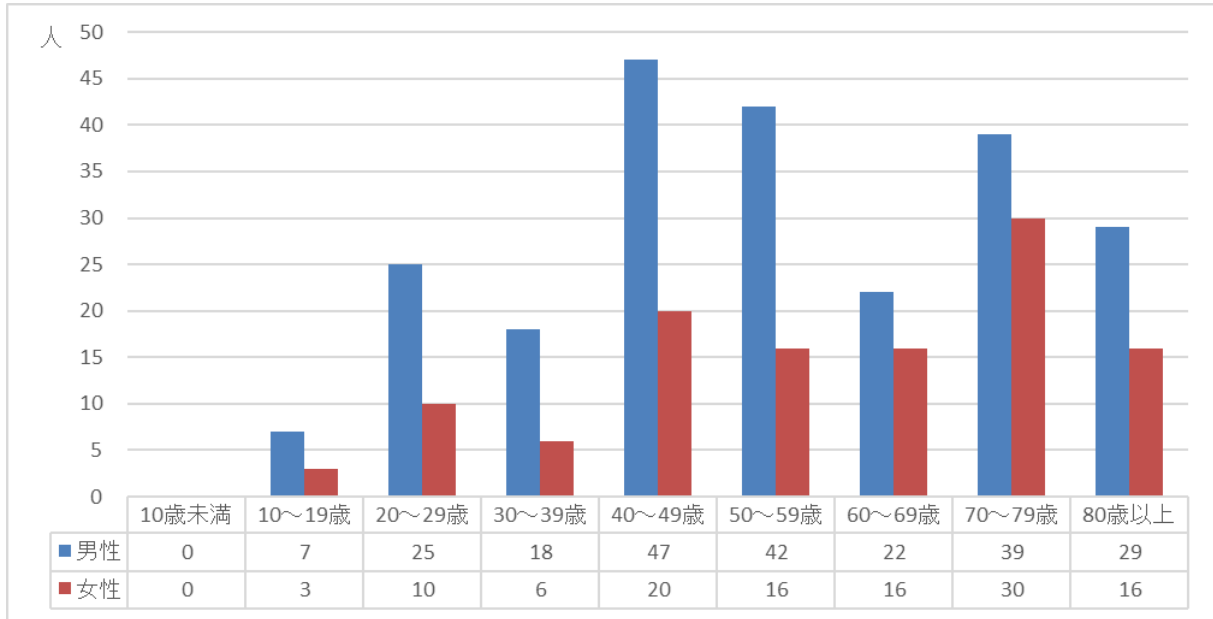
図6 群馬県と全国の性別自殺死亡率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

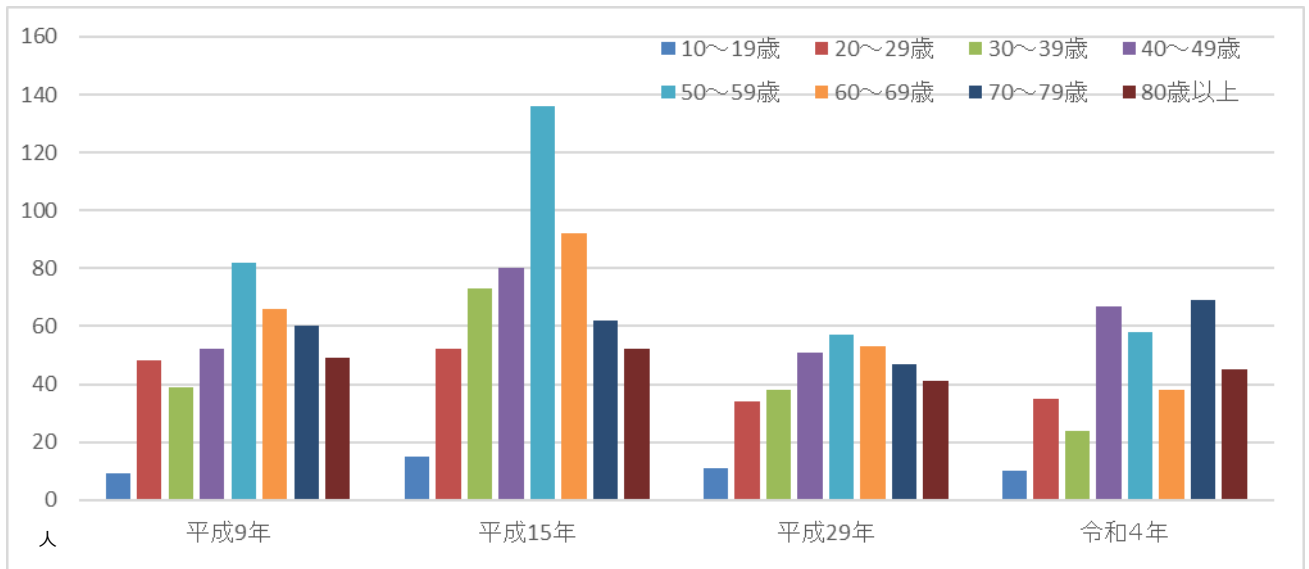
- 令和4年の年齢階級別の自殺者数をみると、男性は40～50歳代を中心とした中高年層、女性は70歳以上の高齢者が多い傾向があります。
- 自殺者数が減少傾向にある年代が多い中で、10代及び70～80歳代の高齢者の自殺者数は、平成9年以降概ね横ばいで推移しています。

図7 群馬県の性・年齢階級別自殺者数（令和4年）



出典：厚生労働省「人口動態統計」

図8 群馬県の自殺者数の年齢階級別推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

<参考> 地域における自殺の基礎資料「自殺日・住居地」による自殺者数

	20歳未満	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	不詳	合計
男性	32	149	141	252	189	159	173	123	0	1,218
女性	17	55	46	92	90	82	124	91	0	597
合計	49	204	187	344	279	241	297	214	0	1,815

※平成30年から令和4年までの合計

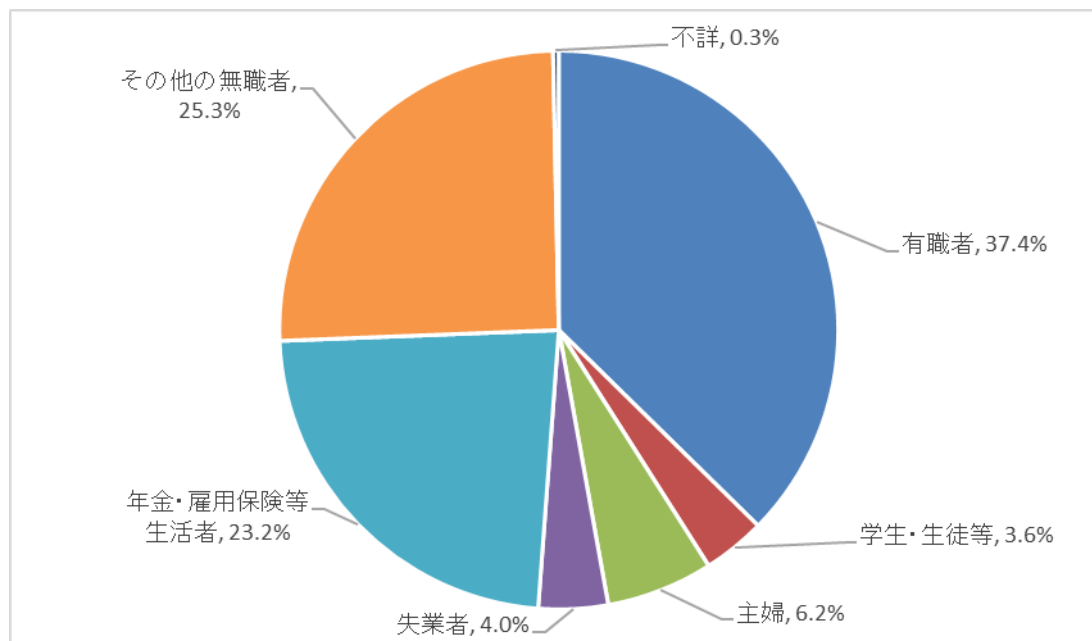
#### (4) 職業別の状況

○平成 30 年から令和 4 年の 5 年間の自殺者を職業別にみると、有職者は 37.4%、無職者は 62.3%となっています。

○なお、主婦・学生以外の無職者（失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者の合計）は、全体の 52.5%となっています。

○年金・雇用保険等生活者については、平成 24 年から平成 29 年における自殺者の割合が 12.1%であったのに対し、今回は 23.2%となるなど、大幅に増加しています。

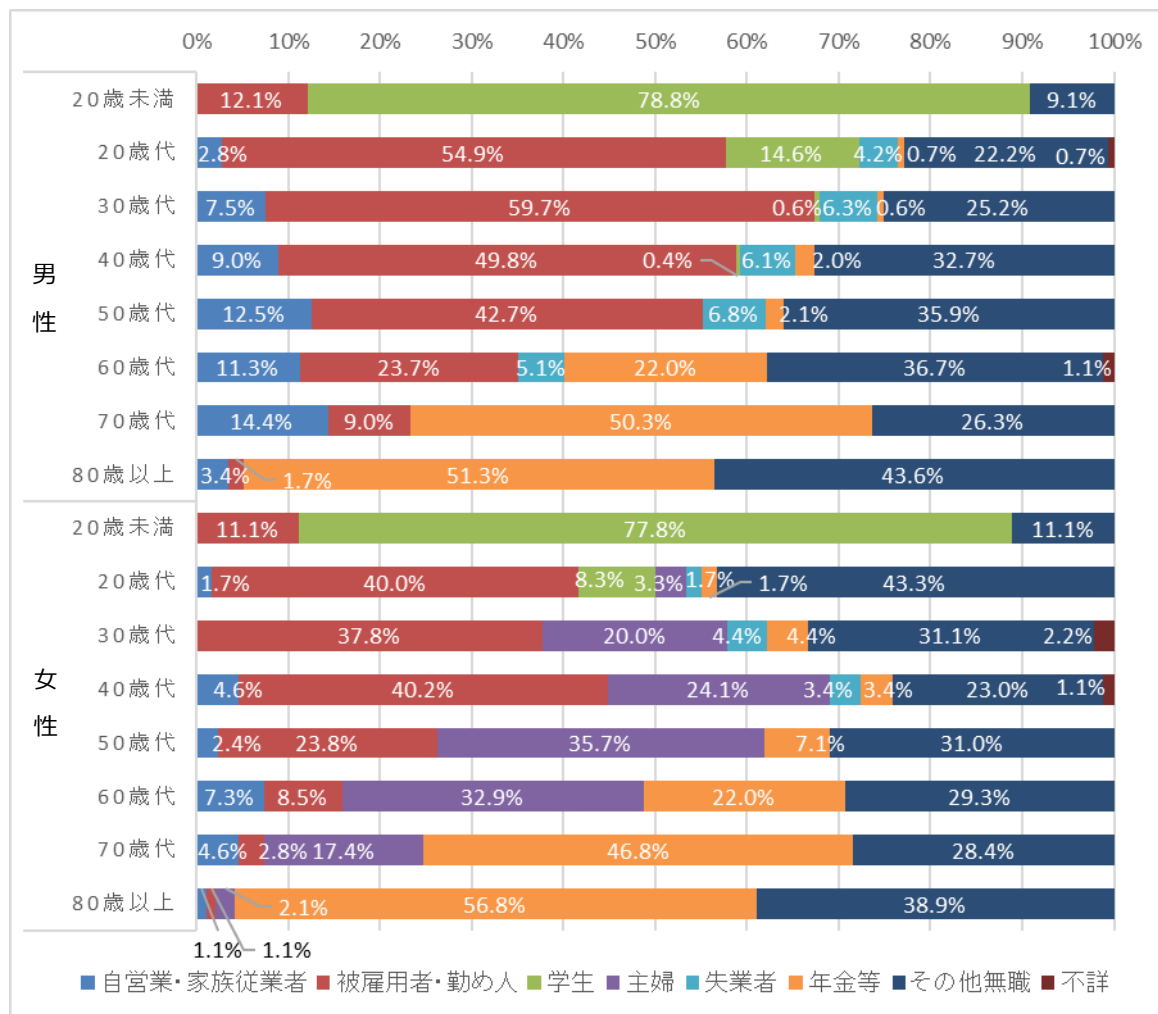
図 9 自殺者の職業別の割合（平成 30 年～令和 4 年）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

○平成 29 年から令和 3 年の状況を年齢・性別・職業別にみると、20～50 歳代では「被雇用者・勤め人」が多いですが、男性の 30～50 歳代では「その他無職」と「失業者」の合計が約 3 分の 1 を占め、30 歳代以降の女性では「その他無職」と「主婦」の割合が高くなっています。

図 10 年齢・性別・職業別の割合



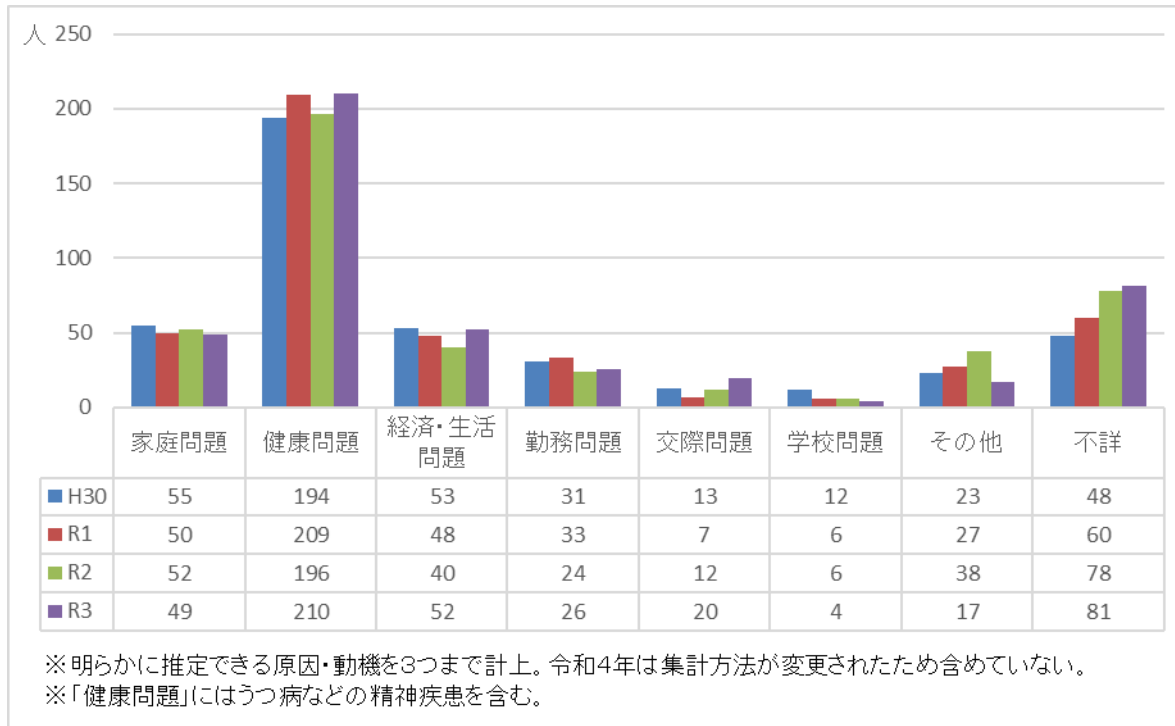
出典：いのち支える自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル（2022）」

### （5）原因・動機別の状況

- 平成 30 年から令和 3 年までの原因・動機別自殺者の状況を見ると、健康問題が最も多くなっています。健康問題に次いで多いのが家庭問題、経済・生活問題です。
- 健康問題は微増傾向、家庭問題、経済・生活問題も横ばいであり減少していません。
- 図 11 から図 13 では、明らかに推定できる原因・動機を 3 つまで(※)計上していますが、自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きているものであり、関連施策の有機的な連携のもと、総合的な対策を実施することが必要です。

※警察庁自殺統計原票の集計方法の変更に伴い、令和 4 年以降は 4 つまでとなった。そのため、令和 4 年の数値は前年以前の数値と比較できない。

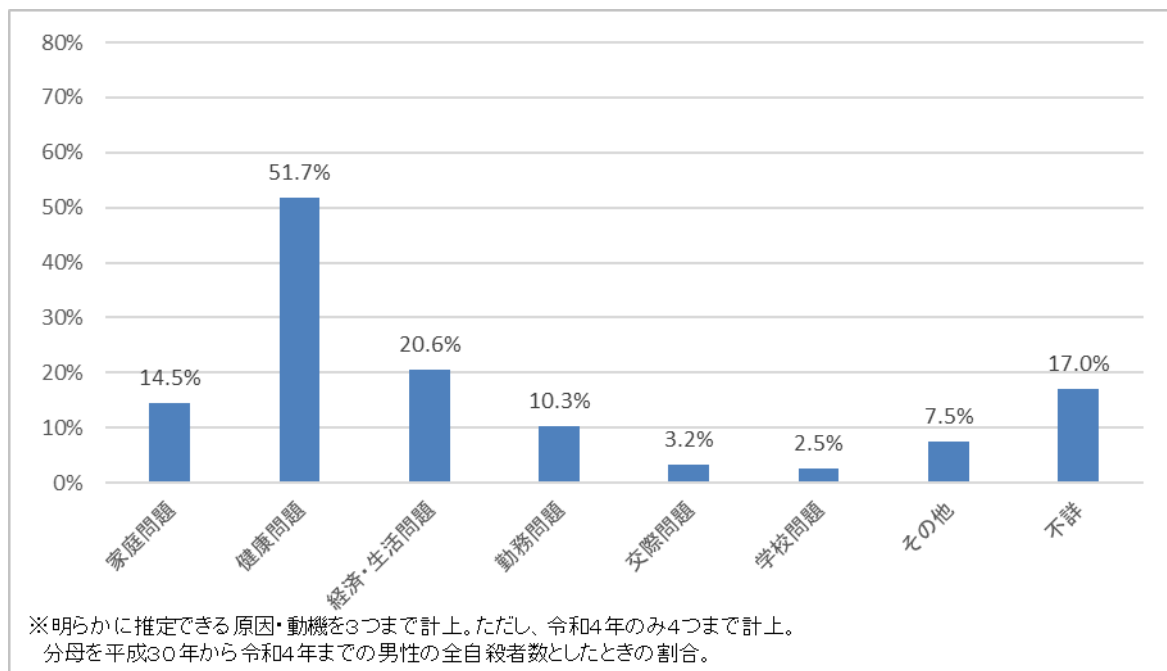
図 11 原因・動機別



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

○平成 30 年から令和 4 年までの状況を男女別にみると、男女とも健康問題が多く、特に女性でその傾向が強くなっています。男性は、経済・生活問題、勤務問題が女性に比べて高い割合となっています。

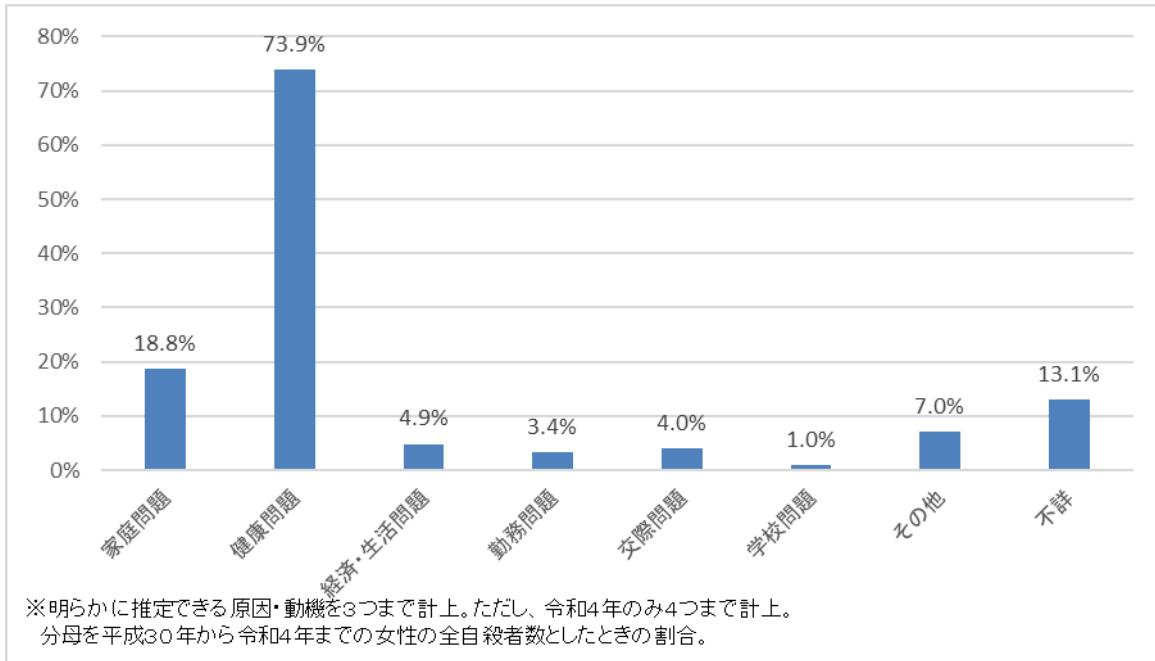
図 12 原因・動機別（男性）



出典：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」



図 13 原因・動機別（女性）

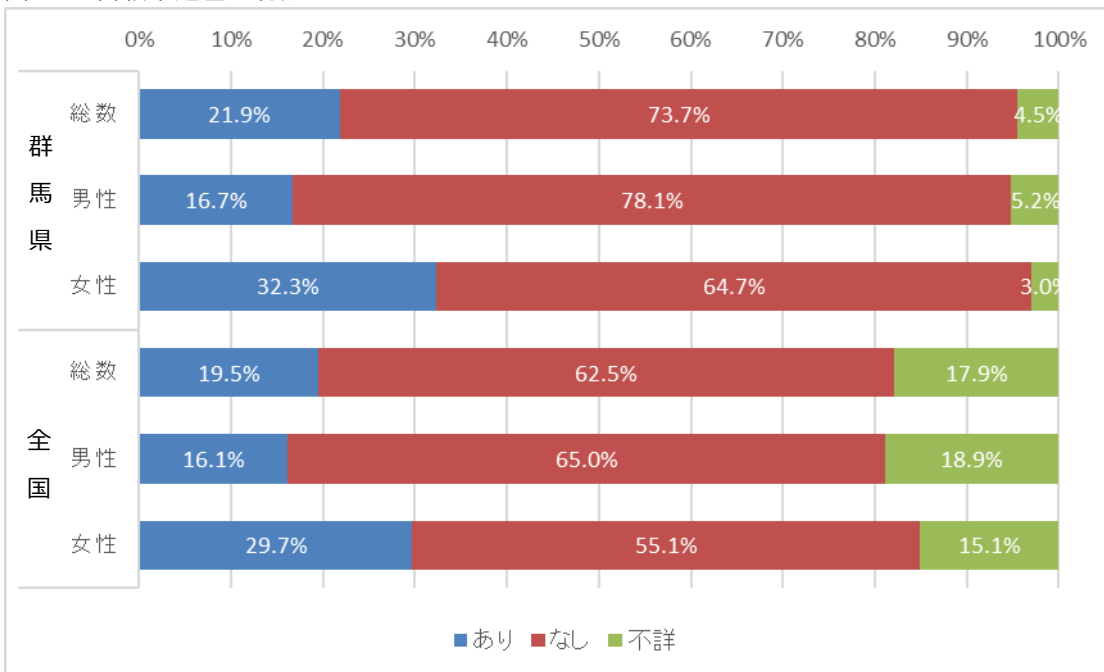


出典:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

### (6) 自殺未遂歴の状況

○平成30年から令和4年までの状況をみると、自殺者数のうち自殺未遂歴のある人の割合は、男性が16.7%、女性が32.3%であり、女性のほうが高くなっています。また、男女とも全国平均を上回っています。

図 14 自殺未遂歴の有無

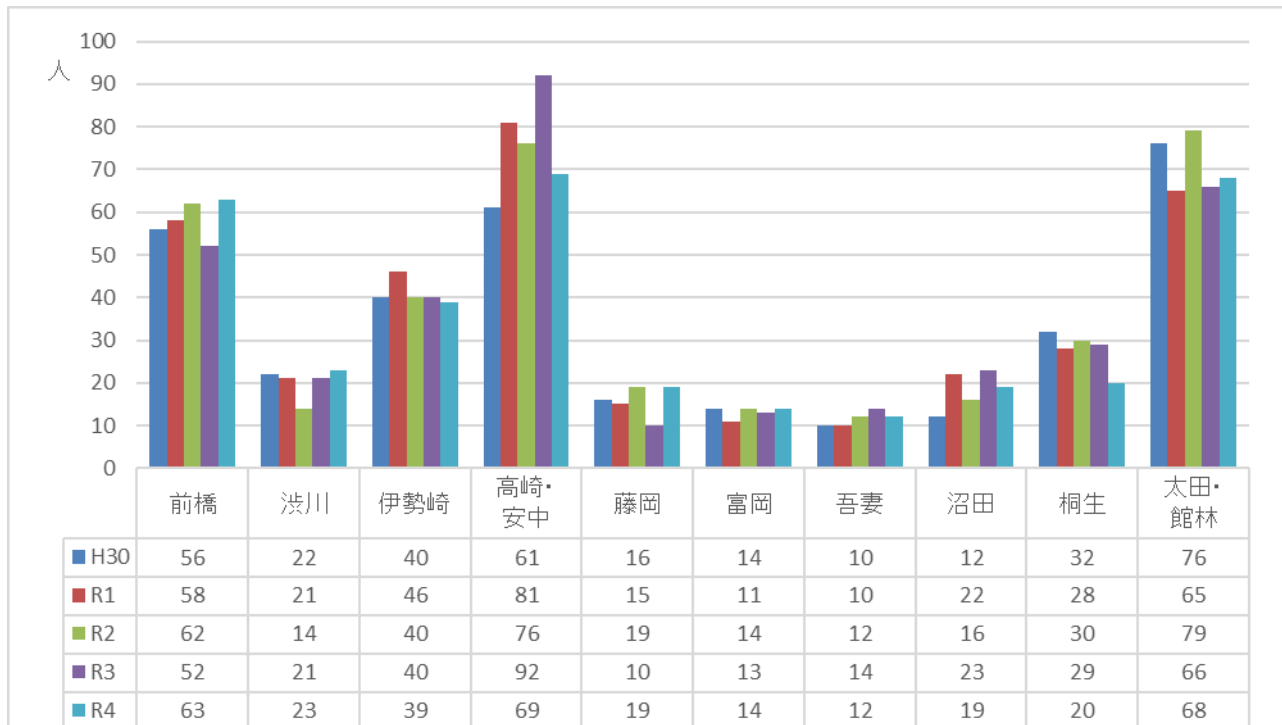


出典:厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

(7) 二次保健医療圏別の状況

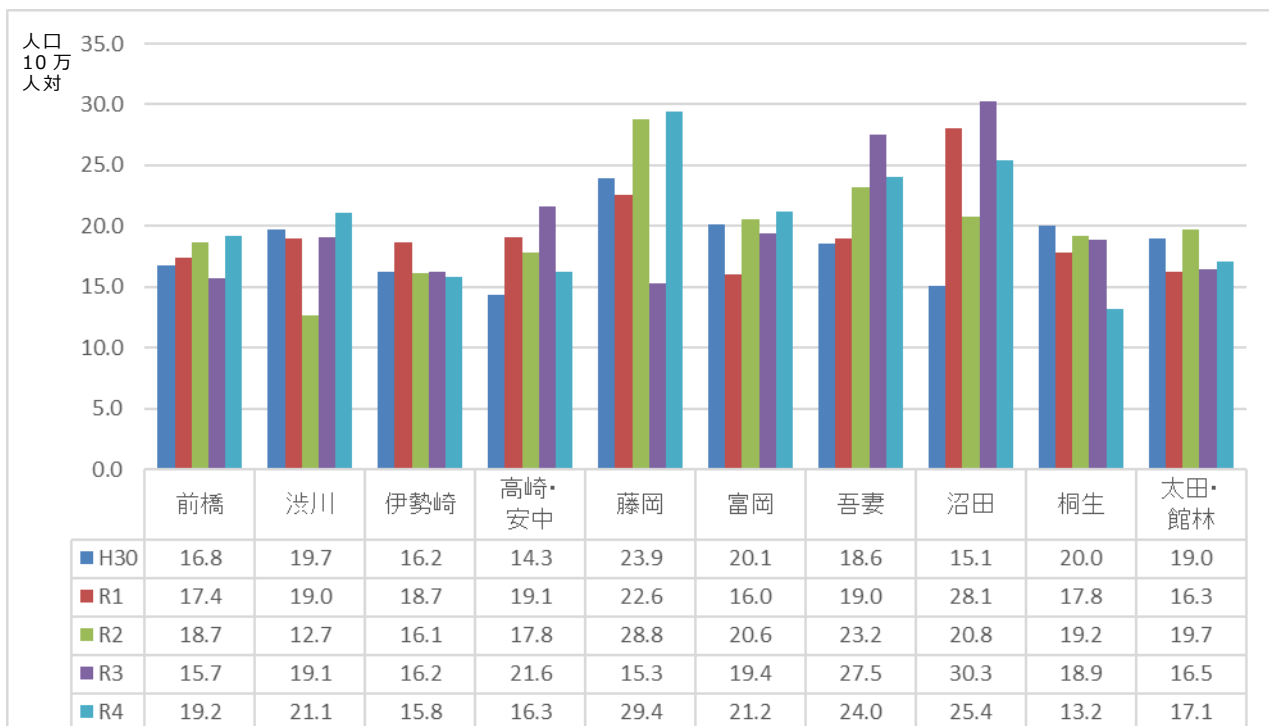
○二次保健医療圏ごとの自殺者数、自殺死亡率をみると、地域や年によってばらつきがあることがうかがえます。

図 15 二次保健医療圏別の自殺者数



出典：群馬県「令和4年群馬県の人口動態統計概況(確定数)」

図 16 二次保健医療圏別の自殺死亡率



出典：群馬県「令和4年群馬県の人口動態統計概況(確定数)」

注) 二次保健医療圏(\*)の構成市町村

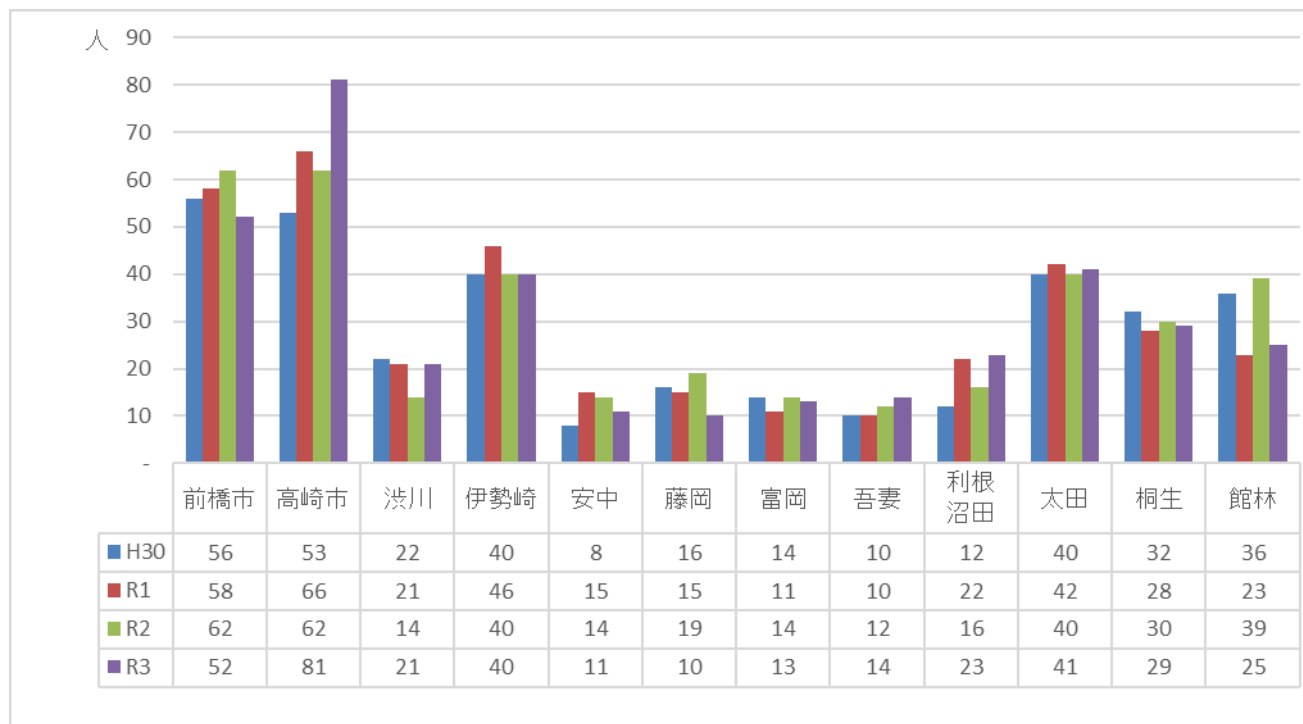
前橋保健医療圏〔前橋市〕、 渋川保健医療圏〔渋川市、榛東村、吉岡町〕、  
 伊勢崎保健医療圏〔伊勢崎市、玉村町〕、  
 高崎・安中保健医療圏〔高崎市、安中市〕、  
 藤岡保健医療圏〔藤岡市、上野村、神流町〕、  
 富岡保健医療圏〔富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町〕、  
 吾妻保健医療圏〔中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町〕、  
 沼田保健医療圏〔沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町〕、  
 桐生保健医療圏〔桐生市、みどり市〕、  
 太田・館林保健医療圏〔太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、  
 邑楽町〕

\* 高度・特殊な医療を除く一般的な入院医療や、比較的専門性の高い保健医療サービスの提供を行う圏域。

(8) 中核市・保健福祉事務所管内別の状況

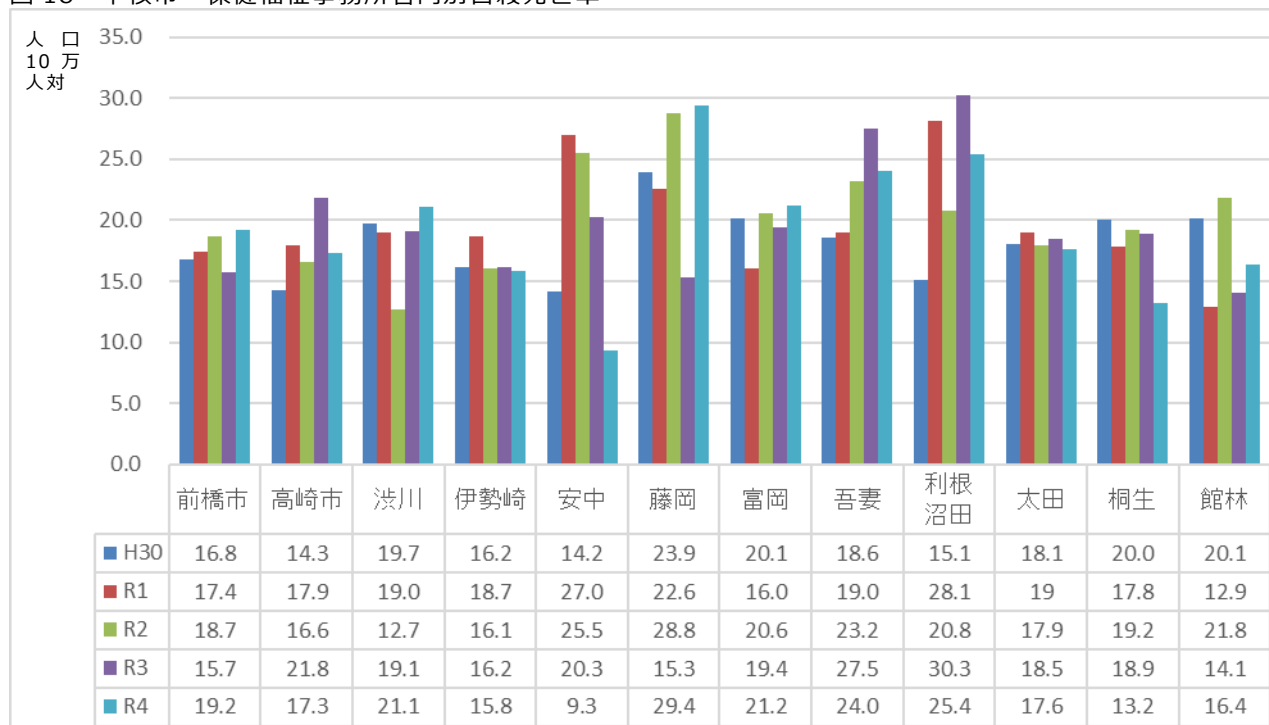
○中核市と各保健福祉事務所の管内別の自殺者数、自殺死亡率をみると、地域や年によってばらつきがあることがうかがえます。

図 17 中核市・保健福祉事務所管内別自殺者数



出典：群馬県「令和4年群馬県の人口動態統計概況(確定数)」

図 18 中核市・保健福祉事務所管内別自殺死亡率



出典：群馬県「令和4年群馬県の人口動態統計概況(確定数)」

注) 保健福祉事務所管轄地域

渋川〔渋川市、榛東村、吉岡町〕、伊勢崎〔伊勢崎市、玉村町〕、  
 安中〔安中市〕、藤岡〔藤岡市、上野村、神流町〕、  
 富岡〔富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町〕、  
 吾妻〔中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町〕、  
 利根沼田〔沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町〕、  
 太田〔太田市〕、桐生〔桐生市、みどり市〕、  
 館林〔館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町〕